

## お中元の注文票

エクセルで、お中元の注文票を作ります。VLOOKUP 関数を使って、「商品番号を入力するだけで、商品名と単価が表示される」ようにしてみましょう。この関数は、指定した範囲内から検索条件に一致したデータを検索し、それを取り出してくれる関数です。集計や分析作業に、必須の関数です。

### 1. 注文票と、商品一覧表をつくる

①左側に注文票、右側に商品一覧表を作ります。以下のように入力してください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	お中元 注文票						商品一覧		
2									
3	商品番号	商品名	数量	単価	金額		商品番号	商品名	単価
4							A001	そうめんセット	3,000
5							A002	ひやむぎセット	3,000
6							A003	ゼリー詰め合わせ	2,500
7							A004	ビールセットA	3,150
8							A005	ビールセットB	5,250
9							A006	梅干し詰め合わせ	3,300
10				合計金額			A007	ハム詰め合わせA	3,150
11							A008	ハム詰め合わせB	4,200
12							A009	クッキー詰め合わせ	3,000
13							A010	ジュース詰め合わせ	3,150

### 2. 注文票に商品番号を入れたら、自動的に商品名と単価が表示されるようにする

VLOOKUP 関数は、①検索範囲の一番左の列から検索条件を探し、②その右の列から表示させるデータを取り出します。

商品番号	商品名	単価
A001	そうめんセット	3,000
A002	ひやむぎセット	3,000
A003	ゼリー詰め合わせ	2,500
A004	ビールセットA	3,150
A005	ビールセットB	5,250
A006	梅干し詰め合わせ	3,300
A007	ハム詰め合わせA	3,150
A008	ハム詰め合わせB	4,200
A009	クッキー詰め合わせ	3,000
A010	ジュース詰め合わせ	3,150

①まず、商品名が表示されるようにしましょう。B4 を選択し、「関数の挿入」ボタン→「検索/行列」の分類から VLOOKUP 関数を選びます。

②「関数の引数」左のようにします。

「A4 に入力された商品番号を、商品一覧 (G4 から I13) から探させ、その右 2 列目にあるデータを表示させる」ということです。

検索値	A4
範囲	\$G\$4:\$I\$13
列番号	2
検索方法	FALSE

「FALSE」とは、完全に一致したデータを探させることを意味します。

③数式を、B9 までコピーします。

お中元 注文票

商品番号	商品名	数量	単価	金額
	#N/A			
	#N/A			
	#N/A			
	#N/A			
	#N/A			
	#N/A			
合計金額				

④「#N/A」とエラーが表示されますが、これは、商品番号がまだ入力されていないからです。

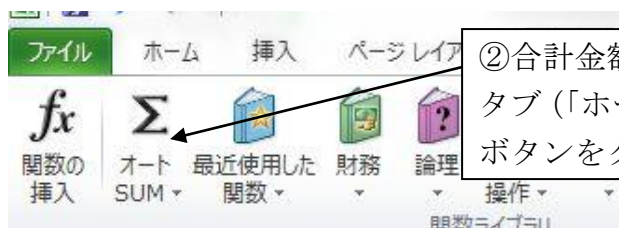
ために、A4に「A001」と入力してみてください。エラーが消え、商品名が表示されるはずです。

⑤同様に、D4を選択して、商品番号を入力したら単価が自動的に表示されるようにしてみましょう。

商品番号	商品名
A001	そうめんセット
	#N/A

### 3. 金額と合計金額を出せる数式を入力する

①金額を出させるため、E4に、「=D4\*C4」と数式を入力し、E9までコピーします。



②合計金額を出させるため、E10を選択し、「数式」タブ（「ホーム」タブでもOK）から「オートSUM」ボタンをクリックします。すると・・・

単価	金額
3,000	0
2,500	0
3,150	0
3,150	0
4,200	0
3,000	0
合計金額	=SUM(E4:E9)

このように自動的に選択されるので、この状態で「エンター」キーを押します。これで、E4からE9までの合計が出るようになりました。

### 4. 商品番号と数量を入力、表の装飾

①あとは、商品番号と数量を入力するだけで、注文票ができあがります。実際に商品番号と数量を入力し、自動的に商品名と金額が表示されることを確かめてみてください。

②また、出来上がった注文票を自由にデザインしてみるのもいいでしょう。

お中元 注文票						商品一覧		
商品番号	商品名	数量	単価	金額		商品番号	商品名	単価
A001	そうめんセット	2	3,000	6,000		A001	そうめんセット	3,000
A003	ゼリー詰め合わせ	1	2,500	2,500		A002	ひやむぎセット	3,000
A004	ビールセットA	2	3,150	6,300		A003	ゼリー詰め合わせ	2,500
A007	ハム詰め合わせA	2	3,150	6,300		A004	ビールセットA	3,150
A008	ハム詰め合わせB	1	4,200	4,200		A005	ビールセットB	5,250
A009	クッキー詰め合わせ	2	3,000	6,000		A006	梅干し詰め合わせ	3,300
合計金額				31,300		A007	ハム詰め合わせA	3,150
						A008	ハム詰め合わせB	4,200
						A009	クッキー詰め合わせ	3,000
						A010	ジュース詰め合わせ	3,150

## 補足)「#N/A」のエラーコードを消す (空白にする)

出来上がった注文票は、商品番号を入力しなければエラーが表示されます。

「商品番号が入力されていないから、関数で表示させようがないよ」という意味なので、このままでも特に問題はありません。

しかし、見た目が良くないため、このエラーを表示させないようにしてみましょう。

B4 セルの数式バーに `=VLOOKUP(A4,$G$4:$I$13,2,FALSE)` が入力されています。

A	B	C	D	E	F
元 注文票					
番号	商品名	数量			
	#N/A				

①今、B4セルにはこのように関数が入力されています。これだと、商品番号が入力されていないので、エラーが表示されてしまいます。

数式バーに `=IF(A4="", "", VLOOKUP(A4,$G$4:$I$13,2,FALSE))` が入力されています。

A	B	C	D	E	F	G
注文票						商品一覧
商品名	数量					

②そこで、IF 関数を使って、このように書き換えてみましょう。IF 関数で VLOOKUP 関数を囲むようにします。

すると、商品番号が入力されていない場合、エラーではなく空白が表示されるようになります。

論理式	A4=""	= TRUE
真の場合	""	= ""
偽の場合	VLOOKUP(A4,\$G\$4:\$I\$13,2,FALSE)	= #N/A

これが「関数の引数」です。上から、  
 「A4 が空白（空白は""とあらわす）なら、」  
 「空白と表示する」  
 「そうでないなら、VLOOKUP 関数のとおりに表示する」  
 という意味になります。

③数式を B9 までコピーすれば完了です。

同様に、単価についても、IF 関数を使ってエラー表記をなくしてみましょう。